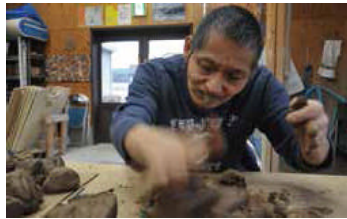




【無題】制作年不詳
陶土 76×72×14mm



戸次 公明 Komei Bekki
1952年～ /滋賀県在住

他のメンバーが帰ってしまった夕方4時きっかりに、戸次さんは粘土室に入ってきます。そして毎日、施設のスタッフと二人っきりで、たづぶりの時間を土と遊び、楽しみます。その制作の手は、終了するまで止まることはありません。何かをブツブツつぶやきながら、一心に集中している姿には独特の緊張感が漂っています。

彼はまず、粘土の小さなカタマリを口の中に入れます。それを出してカタチを作り始める、というこの不思議なやり方はもう何十年も変わりません。

彼の扱うモチーフは、数年で切り替わり、様々なシリーズの作品があります。「お金」「食べ物」「人形」「動物」など、次々と形作ってゆきます。何かをブツブツつぶやきながら作る、というスタイルは、初め頃からまったく変わりません。

また、制作途中での不思議な行動があります。

着ている衣服をすべて脱いで、裏返してたたみ、またすぐ着るのです。スタッフは「どんな意味があるのか、本当のところは分かりません。でも、何かを切り替える時に欠かせない、彼の儀式のように思いますね」と話します。本当になぞの多い作家です。

彼のユニークな作品は、1991年信楽で開催された「世界陶芸祭」の記念切手に選ばれました。また1997年には、スイスのアール・ブリュット・コレクションで作品が展示され、その後収蔵されています。



【無題】制作年不詳
陶土 50×42×11mm



【無題】制作年不詳
陶土 108×29×30mm

戸次 公明